



大阪・関西万博協賛

青森競輪開設74周年

みちのく記念競輪(GIII)

善知鳥杯争奪戦



スキがない古性優作の強さ

秋を迎えたみちのく走路を今年もトップスターが疾走する。シリーズの中心は古性優作、南修二の大阪コンビに、東口善朋も加わる近畿勢だろう。ビッグでのVこそないものの、今年も古性は順調にここまできている。決勝を外したのは1回だけで、高松宮記念杯の決勝での落車の影響が残る中で臨んだサマーナイトフェスティバルでも決勝に乗ってV争いに絡んだ。番手戦もこなすが、自力自在戦が身上で、位置取り、仕掛けのタイミングと本当にスキがないし、踏み出してからのスピードの乗りも申し分ない。敵の包囲網を粉碎し、今年の記念優勝回数をさらに伸ばそう。後位も南、東口なら信頼性が高い。南は高松宮記念杯で決勝に乗るなど相変わらずビッグでも結果を出している。差し脚も切れるし、番手を回った時の別線に与える威圧感は半端ない。

眞杉匠、森田優弥、吉田拓矢の関東勢も全く見劣りしない。怪我でスタートした24年の眞杉だったが、着実に立ち直ってサマーナイトでは、脇本雄-古性を豪快まくりで一蹴する強い内容でVをゲットした。エンジンが掛かってくれば、競輪界屈指の機動力に、ヨコの動きも備えるので、別線の抵抗を力でねじ伏せる場面も容易に目に浮かぶ。サマーナイトの優勝で賞金ランクもジャンプアップし、2年連続でのグランプリ出場も見え

てきたので一戦、一戦が勝負になる。6月久留米記念ではそろった九州勢を脅かすまくりを放って準V。森田も同期の眞杉らと切磋琢磨して力を付けてきており、関東ラインの先導役を買って出ても番手で睨みを利かす役でも存在感を発揮するはずだ。そして、吉田も一昨年に続く大会連覇へ視界は良好だ。失格で昨年後半を棒に振ってしまったが、今年のダービーで決勝に乗って表舞台に再び咲いた。6月取手記念では関東の結束力を見せ付けて地元優勝を果たしており、ここも眞杉、森田と組めればV十分だろう。

譲れない地元エースの新山響平

地元勢も総力を結集して立ち向かう。S班の新山響平、S班当時のキレが戻ってきた守澤太志を軸に、坂本貴史、大川剛、嵯峨昇喜郎の機動型、追い込みも永澤剛、新山将史、内藤宣彦と多士済々。高橋晋也、山崎芳仁の福島勢も加勢する。新山響はビッグヒットこそないものの、高松

宮記念杯をはじめとして安定して決勝に乗っていてトップで戦う選手らしい走りを見せている。トレードマークの“前受けからの突っ張り先行”だけでなく、最近は押さえ先行で結果を出したり戦術の幅を広げている。エースとして譲れない大会だし、19年の69周年大会以来のVを目指す。守澤も7月和歌山を完全優勝するなど、1着の回数が増えてきて戦闘態勢が整ってきた。まだ獲っていない地元記念Vに闘志を燃やす。

躍進著しい阿部将大に注目

見逃せないのが今年に入って躍進著しい阿部将大だ。4月高知記念で新山響や清水裕、深谷知のS班勢をまとめて破って優勝すると、6月函館GIIIもV。そして、7月の地元別府記念では古性や松浦悠を倒して完全優勝してみせた。仕掛けが早いタイプではないが、自信を持ってレースを組み立てられていて、全日本選抜で決勝に乗っている山田英明との九州タッグもVを争う。



推奨選手



宿口陽一 埼玉・91期・S1

波に乗れない近況も、ダービーで2勝、高松宮記念杯でも東二次予選で1着と随所である一発は捨てがたい。関東の目標が多いここも注意。



佐々木眞也 神奈川・117期・S1

自力自在戦で奮戦中。1班に上がった今年はF1戦で2回優勝しているし、GIII開催でも2回決勝に乗っている。混線を狙いたい選手だ。



稲毛健太 和歌山・97期・S1

前期は競走得点が100点を切るところまで落ち、競走スタイルに変化を加えたりなりふり構わない姿勢で巻き返し中。勝ち上がり戦でも怖い。



尾形鉄馬 宮城・107期・S2

6月取手記念の一次予選で強敵を破るなど予選を中心に鋭脚を発揮している。この前はあっせんも空くし、しっかり仕上げで大物食いも。



山根慶太 岡山・123期・S2

7月に特進。S級でも予選は勝っていて力を感じさせる。徹底先行で売り出した兄の将太と異なり、より柔軟な攻めを見せるところが魅力だ。

